

ERCPにおけるEST後出血に対する ピュアスタットを用いた止血



医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院
肝胆膵内科部長 内視鏡センター長 消化器病センター長

山本 龍一 先生

- 使用所感**
- ▶ EST後の静脈性出血に有用であった。
 - ▶ 塗布後視野が良好であり、止血が得られているか、確認が良好であった。
 - ▶ 起上装置をあまり使用しないほうが塗布が容易な印象であった。
 - ▶ 乳頭部に停滞するので塗布後の止血効果が期待できる。

診断 閉塞性胆管炎

患者背景 54歳男性
アルコール性肝硬変にて血小板が $6.0 \times 10^4 / \mu\text{L}$

- 治療内容**
1. 0.025inch VisiGlide GW (オリンパス)、MTW ERCPカテーテル (アビス) を用い、胆管造影を施行した
 2. CleverCut 3V (オリンパス) を用いてのEST施行時に静脈性出血があり (Fig.1)、Multi-3V Extraction balloon (オリンパス) にて乳頭圧迫止血を施行した (Fig.2)
 3. 総胆管に5Fr ループ間8cm double pigtail型Plastic stent (ガデリウス・メディカル) を留置した
 4. 乳頭部にピュアスタット3mLを塗布した (Fig.3, 4)

術後経過 後出血や穿孔などの有害事象は生じなかった
翌日、食事を開始し、3病日で退院した

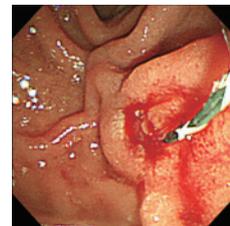


Fig1. EST施行時の出血確認

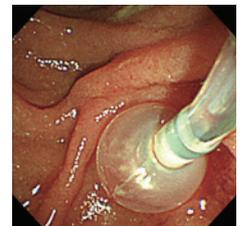


Fig2. 乳頭圧迫止血を施行

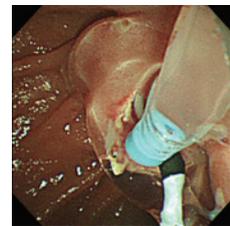


Fig3. ピュアスタットの塗布



Fig4. ピュアスタットの塗布

Tips

- ▶ 出血に備え、検査室内にピュアスタットを常備し、すぐに使用できる状態にしておく。
- ▶ 3mL製材の場合、カテーテル (ファインジェット (トップ)) 内に全てのピュアスタットが満たされてしまうため、塗布の際にはピュアスタットシリンジに空気を約5mL吸引し、親指で間欠的に押して少しずつ塗布する。
- ▶ 塗布の際、起上装置にてカテーテルがなるべく直角にならないように乳頭部にカテーテル先端を押し当てる。
- ▶ ピュアスタット塗布中は、送気送水は控える。



内視鏡センター スタッフの皆様